

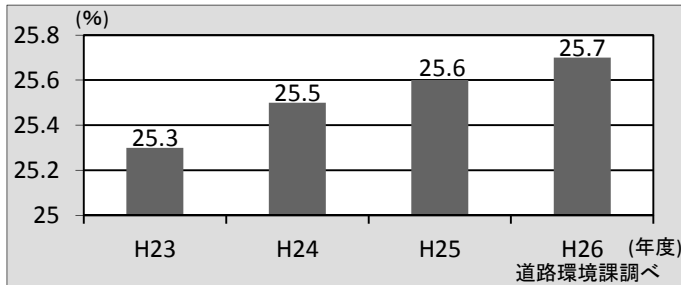
主担当部局(長)名	まちづくり推進局長 金剛 一智
関係部局(長)名	総務部長 野村 政樹、地域振興部長 一松 旬、健康福祉部長 土井 敏多、こども・女性局長 上山 幸寛、医療政策部長 渡辺 顕一郎、くらし創造部長 中 幸司、産業・雇用振興部長 森田 康文、農林部長 福谷 健夫、県土マネジメント部長 加藤 恒太郎、教育長 吉田 育弘

重点課題	Ⅱ くらしの向上 11 くらしやすいまちづくり 1 地域性を活かした住み良いまちづくりの推進
------	--

目指す姿	生活者や来県者の視点から「やすらぎ」「憩い」「もてなし」に配慮した空間づくりを進めます。また、県民が安心して住み続けられるよう、福祉・医療・文化施設や川辺等の地域資源を活用した地域を元気にするまちづくりを進めるとともに、公共交通の利用促進を図ります。
------	---

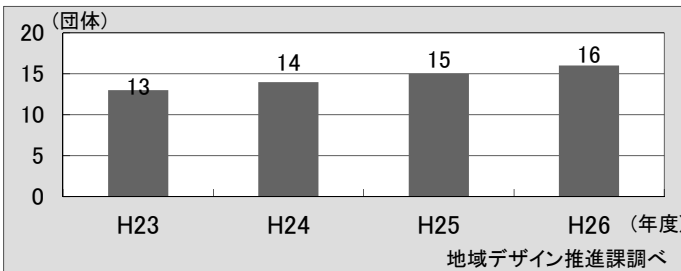
1. 政策課題の進捗状況

【歩道整備率】



目標	歩行空間が確保されていない通学路、バリアフリー基本構想における生活関連経路などで、歩行空間の整備を推進します。
取組	奈良県安心歩行空間整備方針により、歩道整備を推進しました。
成果	事業の推進により、歩道整備率が平成26年度に0.1%増加し、25.7%となりました。

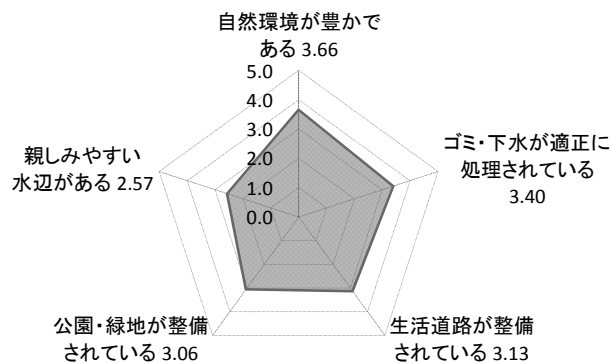
【まちづくりの検討を行う協議会等の数】



目標	人々がいきいきと暮らせるまちづくりを推進するため、まちづくりの検討を行う協議会等の数を平成26年度に16団体へ増やします。(H24年度:14団体)
取組	市町村一まちづくり事業を推進しました。また設置済み協議会等において、継続的に活動を推進しました。
成果	事業の推進により、まちづくりの検討を行う協議会等の数が、平成26年度に1団体増え、累計16団体に増加し、目標を達成しました。

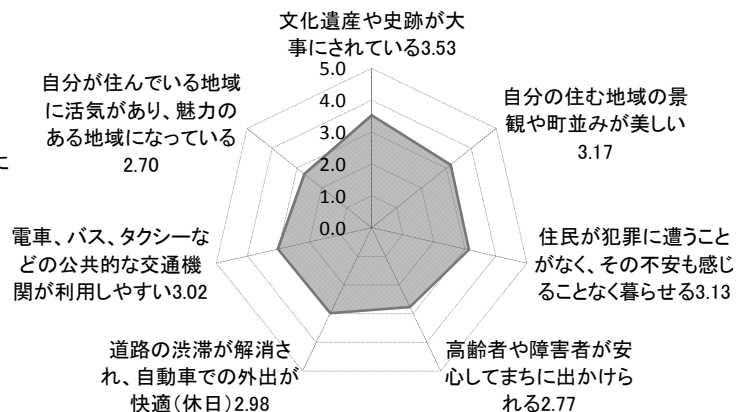
2. 現状分析

【地域の状況についての評価】



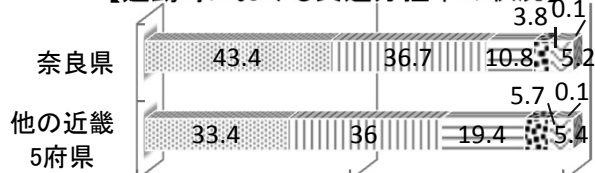
- ・「自然環境が豊かである」「ゴミ・下水が適正に処理されている」の評価は高いです。
- ・「親しみやすい水辺がある」の評価は低いです。

【身近な生活に関する満足度】



- ・「文化遺産や史跡が大事にされる」「自分の住む地域の景観や町並みが美しい」の満足度は比較的高いです。
- ・「自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっている」の満足度は低いです。

【通勤時における交通分担率の状況】

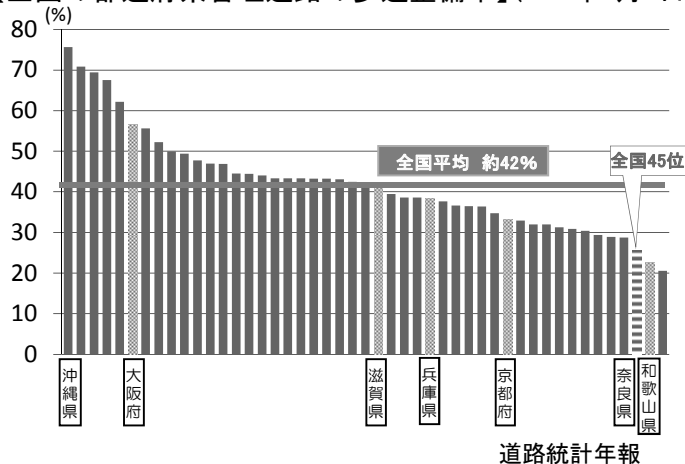


- ※ 自家用車
- ※ 電車・バス
- ※ 二輪
- ※ 徒歩
- ※ その他
- ※ 不明

通勤時における自家用車利用率は約43%で、他の近畿5府県の平均約33%と比較して高い水準となります。

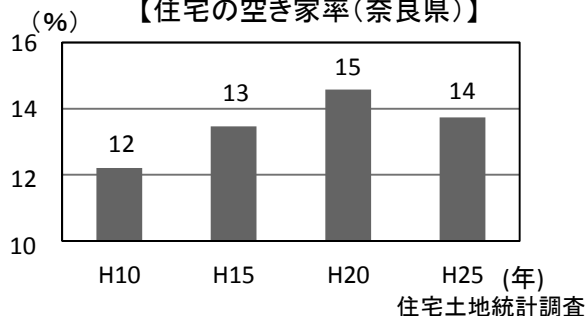
第5回近畿圏パーソントリップ調査(H22年)

【全国の都道府県管理道路の歩道整備率】(H25年4月1日時点)



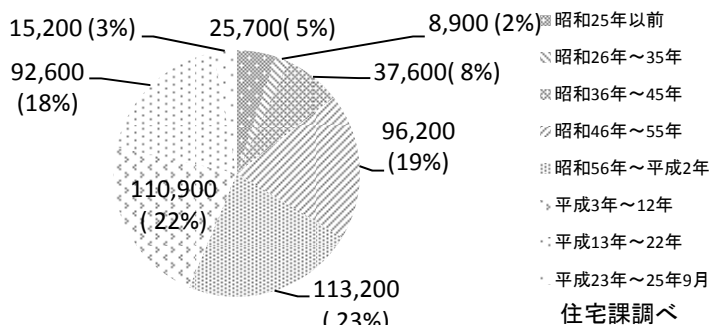
奈良県の歩道整備率は全国平均を大きく下回っており、全国的に見てもかなり遅れている状況です。

【住宅の空き家率(奈良県)】



人口減少に伴い、今後更に空き家の増加が見込まれ、空き家の適正管理や中古住宅の利活用促進など空き家の対策が必要です。

【住宅の建築時期(奈良県)】



県内に立地する住宅のうち、およそ6割が昭和の年代に建築されたものです。今後、既存住宅のリフォーム等による性能向上が必要です。

目的達成のプラス要因	奈良県の持っている強み	内部(内的要因)	奈良県の抱えている弱み	目的達成のマイナス要因
	【地域の状況についての評価】 1 自転車観光の移動手段として有効 2 県内に歴史的まちなみや美しい景観が多数保全されている 3 県民の住みやすさの評価では約60%が「住みやすい」と評価 4 リニア中央新幹線の「奈良市附近」の駅位置及び三重・奈良ルートの早期確定を、県下一丸となって要望		【地域の状況についての評価】 5 「親しみやすい水辺がある」、「高齢者等が安心して出掛けられる」が低評価 【高い自家用車利用率】 6 通勤時における自家用車利用率は、約43%と高い 【全国の都道府県管理道路の歩道整備率】 7 県管理道路の歩道整備率は約26%で、全国平均約42%と比べ大幅な遅れ 【日常生活の利便性】 8 最寄りの駅や近隣のデイサービスセンターへの距離が遠い 9 郊外に大型ショッピングセンター等が数多く出店 【社会状況】 10 人口が平成12年をピークに減少傾向 【国・県・市町村有施設の状況】 11 国・県・市町村それぞれが、別々の目的で施設を保有し、老朽化が進行	
	奈良県への追い風	外部(外的要因)	奈良県への向かい風	
	a PFI等による民間(事業者)の公共事業への参入 b 国民の環境への意識の高まり c 「奈良市附近を通る」とされたリニア中央新幹線整備計画の決定 d 全国的な通学路等の安全対策実施の動き e 河川堤防に花を植え、管理を行う団体の増加 f 健康に対する意識の高まり g まちづくり検討を行う協議会数の増加 h 公共施設にファシリティマネジメントの考え方を導入する自治体が増加 i 国・公有財産における国と地方自治体の連携	j 高度経済成長期等に建てた住宅の老朽化 k 少子高齢化 l 中心市街地の空洞化 m 過疎地域におけるバス路線の減少		

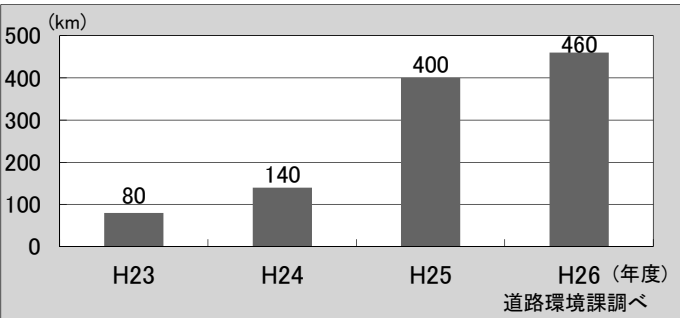
3. 施策課題の進捗状況

戦略1 やすらぎや憩いを提供する空間づくりに取り組みます。

主担当課(長)名 地域デザイン推進課長 本村 龍平

戦略目標	▶地域活動が活発な河川において、除草・清掃等の業務を包括的に実施し、維持管理の充実を図り、良好な河川空間の確保を目指します。 ▶大宮通りの3つの交差点付近で、平成26年度までに、地域との協働による花のあるおもてなし空間づくりを目指します。 ▶案内誘導及び注意喚起サイン整備等を進め、広域的な自転車ネットワークの充実を目指します。(H24年度末:約140km整備済)
------	--

【奈良県の広域的な自転車ネットワークの整備】



取組	広域的な自転車ネットワークの整備を推進しました。
成果	広域的な自転車利用ネットワーク約600kmのうち、約460kmについて案内誘導及び注意喚起サインの整備等を完了しました。

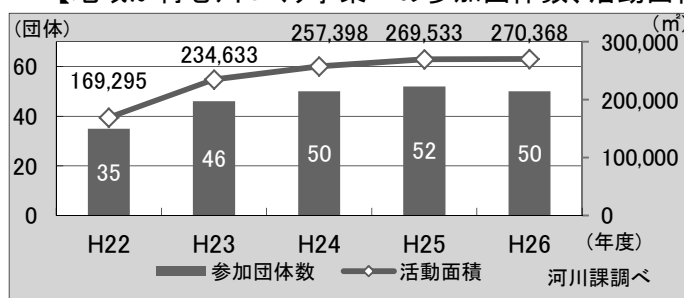
主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
児童や高齢者、障害者等多くの人々が利用する箇所等での歩行空間の整備				
歩道整備率(%) [累計]	25.5	25.6	25.7	道路環境課
自転車の利用促進				
秋期休日における自転車周遊者数(台/日) (計測箇所:10カ所)	5,580	5,054	5,715	道路環境課
道路・河川などの公共施設において花のある空間づくりの推進				
川の彩り花つつみ事業の実施地区数(地区)	14	15	19	河川課
道路沿道における花いっぱい運動に参加する地域ボランティア団体数(団体)	21	21	21	道路管理課
無電柱化の推進				
市街地幹線道路の無電柱化整備延長(km) [累計]	18.4	19.3	20.3	道路環境課

これまでの成果

- ・多発する通学路での事故を受け、平成24年度に教育委員会、道路管理者、警察が連携し、通学路の緊急合同点検を実施した結果、県全体では1,341カ所の対策必要箇所があり、うち1,229カ所が対策済みです。(H26年度末現在)
- ・バリアフリー基本構想における生活関連経路の整備(15路線)のうち、2路線が完了し、8路線について事業実施中です。
- ・広域的な自転車利用ネットワーク約600kmのうち、約460kmについて整備完了しました。(H26年度末現在)
- ・主要な駅やICから観光拠点へのアクセス区間など10カ所において、来訪者をもてなす空間の重点的な管理を実施しました。
- ・川の彩り花つつみ事業を19地区で実施しました。
- ・地域との協働による花のあるおもてなし空間づくりを、大宮通りの3つの交差点で実施しました。(H26年度末現在)
- ・地域が育む川づくり事業を50団体、270,368㎡で実施しました。
- ・河川美化愛護団体支援事業を101団体が実施しました。

戦略目標	▶既存のインフラや新たに整備するインフラを活かして人々がいきいきと暮らせる川辺のまちづくりを目指します。 ▶医科大学教育・研究部門の移転に関しては、平成33年中の新キャンパスオープンを目指します。また、教育・研究部門の移転後に生じる空地及び医大周辺については、高齢者も安心して暮らせる、まちづくりを目指します。 ▶県立奈良病院周辺地域において、住み慣れた地域で一人一人が安心して暮らし続けられるまちづくりを目指します。 ▶地域の中で安全・安心に住み続けられるよう、高齢者等が住みよいまちづくりを目指します。 ▶市町村や交通事業者、地域住民等と連携・協力のもと、公共交通機関を利用した便利で快適なまちづくりを目指します。 ▶土地、建物等の資産を総合的に活用するファシリティマネジメントの考え方を、県や各市町村が保有する公共施設に取り入れ、まちづくりの拠点となる施設を目指します。
------	--

【地域が育む川づくり事業への参加団体数、活動面積】



取組	地域が育む川づくり事業について、積極的に広報に努めるとともに、既存団体の当事者への移行を推進しました。
成果	参加団体は平成26年度に2団体減少したものの、活動面積は852㎡増え、総活動面積は270,368㎡に増加しました。

主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
川辺のまちづくり・市町村一まちづくり				
まちづくりの検討を行う協議会等の数(協議会)	14	15	16	地域デザイン推進課
少子・高齢化社会に対応した住まい・まちづくりの推進				
サービス付き高齢者向け住宅の登録件数(奈良市内は除く)(件)[累計]	15	20	25	住宅課
公共交通機関を利用した便利で快適なまちづくり				
市町村地域公共交通活性化協議会設置数(協議会)	20	20	21	地域交通課

これまでの成果

- ・(佐保川周辺)多世代が生き活きと暮らせるまちづくりを目指し、民官学がまちづくりについて話し合う組織が、地域主導の体制へと発展しました。
- ・(飛鳥川周辺)懇談会を活用し、地域が主体的となったまちづくり活動の展開や地域資源を活かした各種イベントを、地域が主体となり実施しました。また、地元有志(20名程度)で月1回の河川清掃を継続して実施しました。
- ・(県立医科大学附属病院周辺)平成26年10月から医大附属病院玄関前に路線バスの乗入運行を行い、通院者等の利便性を図りました。また、教育・研究部門の農業研究開発センターへの移転について、平成27年1月地元説明会を開催し、地元の理解を得られました。
- ・(県総合医療センター周辺地域)地元団体等で構成される「まちづくり協議会」を開催するとともに、まちづくりのアイデアの提案を公募(アイデアコンペの開催)し、有識者の意見を伺い、まちづくりのソフト面について基本的な検討を実施しました。
- ・奈良県の高齢者の住まい・住環境のあり方の検討結果を踏まえて、奈良県高齢者居住安定確保計画を策定しました。(H26年9月)
- ・サービス付き高齢者向け住宅の普及促進を図るため、登録基準を策定しました。(H26年9月)
- ・郊外住宅地の活性化対策を目的とした空き家相談を実施する団体への支援を実施しました。
- ・沿線市町村と交通事業者などから構成される奈良県地域交通改善協議会等において、まちづくりと一体となった公共交通のあり方や利用促進策などについて協議を行いました。
- ・ファシリティマネジメントに係る県・市町村意見交換会を開催し、情報共有を行いました。

4. 平成28年度に向けた課題の明確化

＜政策課題の進捗状況＞ ・奈良県安心歩行空間整備方針により歩道整備を推進したため、歩道整備率が平成26年度に0.1%増加し、25.7%となりました。 ・市町村一まちづくり事業を推進したため、まちづくりの検討を行う協議会等の数が平成26年度に1団体増え、16団体に増加しました。	＜奈良県の持っている強み＞ 【地域の状況についての評価】 1 自転車が観光の移動手段として有効 2 県内に歴史的まちなみや美しい景観が多数保全されている 3 県民の住みやすさの評価では約60%が「住みやすい」と評価 4 リニア中央新幹線の「奈良市附近」の駅位置及び三重・奈良ルート の早期確定を、県下一丸となって要望	＜奈良県の抱えている弱み＞ 【地域の状況についての評価】 5 「親しみやすい水辺がある」、「高齢者等が安心して出掛けられる」が低評価 【高い自家用車利用率】 6 通勤時における自家用車利用率は、約43%と高い 【全国の都道府県管理道路の歩道整備率】 7 県管理道路の歩道整備率は約26%で、全国平均約42%と比べ大幅な遅れ 【日常生活の利便性】 8 最寄りの駅や近隣のデイサービスセンターへの距離が遠い 9 郊外に大型ショッピングセンター等が数多く出店 【社会状況】 10 人口が平成12年をピークに減少傾向 【国・県・市町村有施設の状況】 11 国・県・市町村それぞれが、別々の目的で施設を保有し、老朽化が進行
＜奈良県への追い風＞ - a PFI等による民間(事業者)の公共事業への参入 - b 国民の環境への意識の高まり - c 「奈良市附近を通る」とされたリニア中央新幹線整備計画の決定 - d 全国的な通学路等の安全対策実施の動き - e 河川堤防に花を植え、管理を行う団体の増加 - f 健康に対する意識の高まり - g まちづくり検討を行う協議会数の増加 - h 公共施設にファシリティマネジメントの考え方を導入する自治体が増加 - i 国・公有財産における国と地方自治体の連携	＜強みで追い風を活かす課題＞ ・連携協定に基づく市町村との協働によるまちづくり(2,a,g) ・美しく効率的に管理するための除草や花の植栽の「選択と集中」(2,b,e) ・奈良県自転車利用促進計画に基づく取組の推進(1,f) ・リニア中央新幹線の整備促進(4,c)	＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞ ・通学路等の歩行空間の整備(6,7,d) ・高齢者が安心して移動できる歩行空間の整備(5,7,8,d,f) ・癒しや潤い等河川空間の持つ様々な機能を活かしたまちづくり(5,e) ・住民と協働した河川環境整備(5,b,e) ・まちづくりの拠点となる公共施設等の利活用を国、県、市町村が連携して推進(11,h,i)
＜奈良県への向かい風＞ - j 高度経済成長期等に建てた住宅の老朽化 - k 少子高齢化 - l 中心市街地の空洞化 - m 過疎地域におけるバス路線の減少	＜強みで向かい風を克服する課題＞ ・良好な住環境の形成(3,j)	＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞ 【重要課題】買い物、通院、送迎、観光等の移動ニーズに応じた交通サービスの実現(8,9,l,m) ・空き家対策の推進(10,j,l) 【重要課題】過疎地域の路線バスの確保(10,m) ・「まちなか」と「郊外」の住み替え円滑化の推進(10,j,l) 【重要課題】医療を中心としたまちづくり(8,k) ・高齢者等が住みよいまちづくり(8,9,k)

5. それぞれの課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
連携協定に基づく市町村との協働によるまちづくり	・市町村と連携協定を締結し、協働してプロジェクトを推進します。 ・プロジェクトの進捗にあわせ、包括協定、基本協定、個別協定を締結し、段階的に市町村を支援します。
美しく効率的に管理するための除草や花の植栽の「選択と集中」	主要な駅やインターチェンジから観光拠点へのアクセス区間など、来訪者をもてなす空間の重点的管理を推進します。
奈良県自転車利用促進計画に基づく取り組みの推進	自転車利用促進に向けた取り組み(ネットワークの充実、自転車利用環境の充実、情報発信の充実等)を推進します。
リニア中央新幹線の整備促進	・「奈良市附近」の駅位置及び三重・奈良ルートの早期確定を、引き続き国、JR東海に対し強く要望します。 ・整備促進を図るため、地元自治体に協力を求められる事項やその受入体制について検討します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
通学路等の歩行空間の整備	「奈良県通学路安全対策推進会議」を開催し、望ましい通学路のあり方や対策のフォローアップ等について検討します。
高齢者が安心して移動できる歩行空間の整備	バリアフリー基本構想における生活関連経路の整備を推進します。
・癒しや潤い等河川空間の持つ様々な機能を活かしたまちづくり ・住民と協働した河川環境整備	【川辺のまちづくり(佐保川周辺)】 ・地域によるまちづくり活動がさらに活発となるように、協議会運営を支援します。 【川辺のまちづくり(飛鳥川周辺)】 ・懇談会を活用しながら、河川清掃や地域資源を活かした各種イベントを、継続的に地域が主体となり実施できるよう支援します。
まちづくりの拠点となる公共施設等の利活用を国、県、市町村が連携して推進	国・公有財産のデータを一元化し、共有化を進めて、国、県、市町村が財産の最適利用を図る際、連携してまちづくりの拠点として必要な機能を見定め、公共施設等の利活用を推進します。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
良好な住環境の形成	県内地域の特性に応じた地域住生活のあり方について検討します。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
【重要課題】買い物、通院、送迎、観光等の移動ニーズに応じた交通サービスの実現	・移動ニーズに応じた交通サービスの提供体制を構築します。 ・奈良県地域交通改善協議会等における議論を踏まえ、まちづくりと連携した公共交通のあり方について、県と「頑張る」市町村の間で合意します。
空き家対策の推進	中古住宅の流通促進により、空き家対策を実施します。
【重要課題】過疎地域の路線バスの確保	・移動ニーズに応じた交通サービスの提供体制を構築します。 ・中南部及び東部の路線バスのあり方について、交通事業者、関係市町村間での協議を行い合意形成をします。
「まちなか」と「郊外」の住み替え円滑化の推進	JTI(一般社団法人移住・住みかえ支援機構)との連携により、マイホーム借り上げ制度の普及促進を図ります。
【重要課題】医療を中心としたまちづくり	【県立医科大学附属病院周辺】 ・県立医科大学の目指すべき将来像の策定と教育・研究部門の移転を契機としたまちづくりを推進します。 【県総合医療センター周辺地域】 ・奈良県総合医療センターの整備に合わせたまちづくりを推進します。(事業スキーム等の検討)
高齢者等が住みよいまちづくり	サービス付き高齢者向け住宅の登録を促進します。

6. 平成26年度評価において見直しを行った課題、取り組み

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
川辺のまちづくり(佐保川周辺)	地域主導によるまちづくりを促進するため、これまでのまちづくり懇談会から、地域主体の協議会へと体制を移行しました。